

令和元年6月21日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02087

研究課題名(和文) 摂関期・院政期の宗教思想研究 菅原文時と永観を起点に

研究課題名(英文) A study of religions thought in the regency period and the Insei period -Start with SUGAWARA no Fumitoki and Eikan

研究代表者

吉原 浩人 (YOSHIHARA, Hiroto)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：80230796

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、摂関期・院政期における文人貴族と僧侶の思想を、菅原文時(899～981)と永観(1033～1111)を起点に、周縁の人物や作品についての研究を推進することを目的とした。菅原文時は、菅原道真の孫で、慶滋保胤・大江匡衡らの師であった。永観は東大寺僧で、『往生拾因』『往生講式』などの著作がある。本研究では、これらに加え、永観が参照した天台本覚思想文献の『心性罪福因縁集』の思想内容と註釈を行い、著書・論文を執筆し、講演などで成果を公表した。その集大成として、2018年12月8～9日、国際シンポジウム「東アジア文化交流 呉越・高麗と平安文化」を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平安中期・後期を代表する菅原文時・永観という文人・僧侶と、その周辺人物の著作を詳細に読み解くことにより、当時の思想・宗教・文学の主流の一端を解明することができた。また南岳衡山と聖徳太子信仰に関する書籍を公刊した。さらに『心性罪福因縁集』院政期古写本ならびに元禄版本影印と翻刻・解題を、初めて公刊したことにより、今後の本格的な研究に道筋をつけた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to promote research on the literary nobility and the Buddhist priests' thought, in the regency period and the Insei period, by starting with SUGAWARA no Fumitoki(899-981) and Eikan (1033-1111), also the surrounding people and their works. SUGAWARA no Fumitoki was the grandson of SUGAWARA no Michizane, and the teacher of YOSHISHIGE no Yasutane, OE no Masahira, etc. Eikan was a monk of Todaiji Temple, who wrote Ujyoujuin往生拾因, Ujyoukoushiki往生講式, etc. Besides these, during this study, I keep annotating Shinshouzaifukuinnenshu心性罪福因縁集, which was known as the Tendai hongaku philosophy and was referred to by Eikan. I have published the results through lectures, papers and book. As the core event, in December 8th-9th, 2018, I held an international academic meeting entitled "the cultural exchange in East Asia- Wuyue, Korai and Heian culture".

研究分野：日本宗教思想史

キーワード：菅原文時 菅原道真 慶滋保胤 大江匡衡 永観 大江匡房 『往生拾因』 『心性罪福因縁集』

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成23～26年度科研費基盤研究(C)「『聖廟文学』の思想史的研究 平安朝文人の天神信仰」を受けて開始された。前研究では菅原道真(845～903)に対する信仰の思想史的研究であったが、本研究では道真の孫である菅原文時(899～981)および、東大寺僧永観(1033～1111)の思想・文学の闡明を目指した。両者は、平安時代中後期の思想・文学を考究する上で、欠かすことのできない人物であるが、ほとんどの作品に註釈が附されておらず、その詳細な内容の解明が大きな課題であった。さらに、永観が参照したことで知られる『心性罪福因縁集』であるが、中国撰述か日本撰述かの決着もついておらず、新発見の院政期古写本も未紹介であり、かつ元禄版本も未公刊であった。

#### 2. 研究の目的

摂関期・院政期における文人貴族と僧侶の思想を、菅原文時(899～981)と永観(1033～1111)を起点に、周縁の人物や作品についての研究を進めること。両者に直接の関係はないが、ともに摂関期と院政期という時代を代表する人物である。菅原文時は、菅原道真の孫として紀伝道の頂点に立つとともに、慶滋保胤・大江匡衡・紀齊名ら多くの弟子達を育てた。永観は、東大寺で三論宗を学んだが、浄土思想に傾倒し『往生拾因』『往生講式』『三時念仏観門式』を撰述した。その浄土教は、源信と、法然・親鸞の架橋的存在と評されることもあるが、独自の世界を築いたと考える。また大江匡房(1041～1111)と全く同時代に生きており、その思想を明らかにする意義は大きい。さらに本研究では、この時期に盛んになった聖徳太子信仰の展開と、永観が引用した『心性罪福因縁集』などにみられる宋の影響を受けた新しい思想についても併せ考察したい。最終年度には、国際研究集会を開催して広く社会に成果を発信する。

#### 3. 研究の方法

- (1)菅原文時門下と永観作品への訳註作成：『本朝文粹』所載の菅原文時作品、及び前回の科研費で積み残した慶滋保胤・大江匡衡・紀齊名らの詩序・願文の、詳細な訳註を行う。永観の『往生講式』『往生拾因』に対しても、同様の作業を行う。これら訳註に際しては、依拠テキストの諸本を調査し、校本を作成するとともに、データベース・類書・索引・辞書などを駆使して、出典の検討を行い、一字一句に対して、慎重かつ精確な訳註を作成することを目指す。
- (2)論文・概説の作成：訳註を作成しただけでは、作品の意図や背景を伝えることができないため、解説・解題を含む論文を作成する。
- (3)研究成果の発表・講演：国内外の学会・講演会で、研究成果の発表・講演を行う。
- (4)実地調査・写本調査：龍谷大学図書館・名古屋市真福寺大須文庫などで写本・版本の調査を行い、併せ日本国内や中国への実地踏査を行う。
- (5)聖徳太子信仰の研究：平安中後期には、聖徳太子に対する信仰も盛んになったため、その実態の解明を目指す。
- (6)『心性罪福因縁集』の研究：『心性罪福因縁集』三巻の各巻頭には「大宋国智覚禅師注置」と記され、永明智覚禅師の著作とされる。本研究では、いまだ解明されていない『心性罪福因縁集』の思想内容を明らかにするとともに、新出真福寺大須文庫院政期古写本・龍谷大学蔵元禄版本を精密に調査して公刊する。

#### 4. 研究成果

下記内容を明らかにし、註釈を行い、実地踏査を実施し、国際会議を主宰した。関連する論文4編・図書2冊を公刊し、研究発表・講演を、中国・韓国・日本の各地で計31回行い、国内外で評

働された。

- (1) 『本朝文粹』所載の菅原文時作品、及び慶滋保胤・大江匡衡・紀齊名らの詩序・願文の、詳細な訳註作成を継続して行った。永観『往生講式』、『往生拾因』と、『心性罪福因縁集』は、大学院生とともに出典調査・訳註を行った。書籍の訳註については、研究期間内に完成させることができなかったが、公刊を目指して作業を継続している。
- (2) 『心性罪福因縁集』の院政期古写本と元禄版本の影印、院政期古写本の翻刻ならびに解題を公刊した。解題においては、本書が日本撰述の偽書であることを明言した。
- (3) 天神信仰の本拠地である大宰府天満宮・京都市北野天満宮・吉祥院天満宮などで実地踏査を行った。『心性罪福因縁集』の写本・版本調査のため名古屋市真福寺大須文庫・龍谷大学図書館で、また沖縄県立図書館などで書籍調査を実施した。
- (4) 中国杭州市・湖州市・北京市・敦煌市・洪雅県、韓国ソウル特別市などで、学会発表・招待講演などを行い、その周辺において寺廟調査を実施した。
- (5) 聖徳太子信仰解明のため、2017年8月21日～22日、湖南省衡陽市南岳衡山において、シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」を主宰し、その成果として『南岳衡山と聖徳太子信仰』を2018年6月に勉誠出版より公刊した。
- (6) 本科研課題の集大成として、2018年12月8～9日、早稲田大学小野記念講堂・文学学術院第一会議室において、国際シンポジウム「東アジア文化交流 呉越・高麗と平安文化」を主宰し、一般に広く公開した。成果は、2019年6月に『呉越・高麗と平安文化』として、勉誠出版より公刊の予定。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- (1) 吉原浩人「銭塘湖孤山寺の元稹・白居易と平安朝の文人」 『白居易研究年報』第16号(査読有) 勉誠出版 pp97-125 2015
- (2) 吉原浩人「楊柳観音と月蓋長者 中国・日本における『請観音経』受容の諸相」 林雅彦編『絵解きと伝承そして文学 林雅彦教授古稀・退職記念論文集』(査読有) 方丈堂 pp285-307 2016
- (3) 吉原浩人「文殊菩薩の化現 聖徳太子伝片岡山飢人譚変容の背景」(査読無) 小峯和明監修『シリーズ 日本文学の展望を拓く』第二巻「絵画・イメージの回廊」 笠間書院 p112-131 2017
- (4) 吉原浩人「南岳衡山における転生言説の展開 聖徳太子伝・絵伝にみる慧思三生・七生説と達摩東漸譚」(査読有) 阿部泰郎・吉原浩人編『南岳衡山と聖徳太子信仰』 勉誠出版 pp21-62 2018

〔学会発表・講演〕(計31件)

- (1) 吉原浩人「聖徳太子南岳衡山取経譚の変容とその絵画化」(招待講演) 中国社会科学院日本研究所・浙江工商大学東亜研究院・湖南師範大学外国語学院主催「湖湘文化と東アジアとの交流」国際学術シンポジウム 於中国長沙市湖南師範大学 2015.8.21
- (2) 吉原浩人「日本に來た達磨大師 聖徳太子伝片岡山飢人伝説の変貌」(招待講演) 「第二回中・日・韓比較文化研究国際学術シンポジウム 理論と応用の融合を中心として」 於中国瀋陽市瀋陽航空航天大学 2015.10.17
- (3) 吉原浩人「『心性罪福因縁集』の思想背景 北宋と平安後期の仏教」(基調講演) 浙江

- 工商大学東亜研究院主催「日本の中国文化に対する摂取と創造」国際シンポジウム 於中国  
杭州市浙江工商大学 2015.11.7
- (4)吉原浩人「『心性罪福因縁集』の万法帰一心思想」 東アジア古代学会・早稲田大学日本古  
典籍研究所共催シンポジウム「人類共有資産としての東アジア文史哲」 於韓国ソウル特別  
市東国大学校 2015.12.12
- (5)吉原浩人「日本平安朝漢文学における禹の形象」(基調講演) 紹興市委宣伝部・紹興市社  
会科学界联合会主催第三屆「大禹与传统文化」国際学術研討会 於中国紹興市浙江越秀外国  
語学院 2016.4.18
- (6)吉原浩人「白居易と平安朝漢文学」(招待講演) 湖州師範学院外国語学院講演会 於中国  
湖州市湖州師範学院 2016.6.3
- (7)吉原浩人「文殊の化現 日本平安朝僧俗の信仰の諸相」 山西省佛教協會・五臺山佛教協  
會主催「文殊信仰暨能海上師誕辰130周年国際学術論壇」 於中国五臺山万豪酒店 2016.8.  
26
- (8)吉原浩人「聖徳太子の南岳慧思後身説・衡山取経譚の形成とその絵画化」(招待講演) 「南  
岳慧思与日本聖徳太子」專題学術報告会 於中国湖南省衡陽市南岳区南岳佛教協會三徳講堂  
2016.9.11
- (9)吉原浩人「『心性罪福因縁集』の院政期古写本と元禄版本」 『日語学習与研究』雑誌社「日  
本漢文古写本的整理研究与中日学術交流史」第二屆写本論壇 於中国北京市北京小湯山国際  
商務官員研修センター 2016.11.4
- (10)吉原浩人「『聖徳太子絵伝』衡山取経・片岡山飢人譚図像表現の変遷と中世太子伝」 早  
稲田大学日本宗教文化研究所・浙江工商大学東亜研究院・蔚山大学校日本語日文化学科主  
催国際シンポジウム「東アジア文化交流 図像を中心に」 於中国杭州市浙江工商大学東  
亜研究院 2016.12.9
- (11)吉原浩人「菅原道真と天神信仰」(招待講演) 湖州師範学院外国語学院講演会 於中国  
湖州市湖州師範学院 2017.4.7
- (12)吉原浩人「世界最初の仏像 中国・日本への流传」(招待講演) 湖南大学外国語学院  
講演会 於中国湖南省湖南大学外国語学院報告庁 2017.5.26
- (13)吉原浩人「『心性罪福因縁集』法志「説法論議比丘」説話考 真福寺蔵 新出院政期写本  
の紹介を兼ねて」 説話文学会平成二十九年度大会 於名古屋大学東山キャンパス野依記念  
学術交流館 2017.6.25
- (14)吉原浩人「『江都督納言願文集』院政期・鎌倉期古写本をめぐる諸問題」 南京大学域外  
漢籍研究所主催第二屆「域外漢籍研究国際学術研討会」 於中国南京市南京大学国際會議中  
心 2017.7.1
- (15)吉原浩人「達摩と慧思の対面 聖徳太子伝にみる達摩東漸譚の諸相」(基調講演) 名  
古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター・早稲田大学日本宗教文化研究  
所主催 シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」 於中国湖南省衡陽市南岳区衡陽南岳君雅洲  
際酒店 2017.8.21
- (16)吉原浩人「『五趣生死輪図』の変遷と日本における受容」(招待講演) 敦煌研究院「莫  
高講堂」第七講 於中国敦煌市敦煌研究院 2017.10.20
- (17)吉原浩人「呉越・北宋期の浙江仏教と平安朝仏教の交流 源信の動向を中心に」(基調  
講演) 「浙江と東アジア 新史料と新視点」国際学術シンポジウム 浙江工商大学東方語  
言文化学院主催 於中国杭州市浙江工商大学 2017.10.29

- (18)吉原浩人「仏教と日本文学」(招待講演) 四川外国語大学特殊講義 於中国重慶市四川外国語大学 2018.4.1
- (19)吉原浩人「日本文化的源流」(招待講演) 浙江工商大学「五洲講壇」講演会 於中国杭州市浙江工商大学東語楼202会議室 2018.4.27
- (20)吉原浩人「菅原道真と天神信仰」(招待講演) 清華大学「清華歴史講堂」講演会 於中国北京市清華大学 2018.5.16
- (21)吉原浩人「神道の定義と本地垂跡」(招待講演) 南京大学「南雍海外名家講堂計画」講演会 於中国南京市南京大学外国語学院 2018.5.28
- (22)吉原浩人「駢儷文と平安漢文学 勸学会の詩文を例に」(招待講演) 南京大学人文基金・南京大学文学院・南京大学域外漢籍研究所連合主催講演会 於中国南京市南京大学文学院 2018.5.29
- (23)吉原浩人「『宋史』日本伝裔然上表文の表現と背景」 浙江工商大学東亜研究院主催「東亜漢文境外行紀行研究」国際工作坊 於中国杭州市浙江工商大学 2018.6.9
- (24)吉原浩人「杭州西湖・廬山草堂と白居易 絵画の日本伝来をめぐって」(招待講演) 中国美术学院文化遺産研究中心・設計芸術学系講演会「新設計史学系列講座」 於中国杭州市中国美术学院 2018.6.20
- (25)吉原浩人「杭州奉先寺源清と日本天台本覚思想」(基調講演) 浙江工商大学東方語言文化学院・杭州径山万寿禅寺禅宗文化研究院主催第四回「東アジアの文献と文学の中の仏教世界」国際シンポジウム 於浙江工商大学 2018.9.22
- (26)吉原浩人「唐代最後の訳経『大乘本生心地観経』と日本留学僧靈山三蔵をめぐる物語」(招待講演) 寧波大学「李達三講堂」第四十四講 於中国寧波市寧波大学 2018.10.29
- (27)吉原浩人「『心性罪福因縁集』の院政期写本と元禄版本の本文の差異」 早稲田大学日本古典籍研究所・北京大学中国語言文学系・北京大学中国古典学中心主催「中日古典学ワークショップ」 於早稲田大学文学学術院 2018.11.10
- (28)吉原浩人「呉越・宋・高麗への返書・返牒と自讃 大江家伝来の外交文書と対外意識」 早稲田大学総合人文科学研究センター2018年度年次フォーラム 早稲田大学総合人文科学研究センター(RILAS)/同研究部門「グローバル化社会における多元文化の構築」/中国・浙江工商大学東亜研究院/韓国・蔚山大学校人文大学日本語日本学科/早稲田大学日本宗教文化研究所/早稲田大学日本古典籍研究所/日本学術振興会科学研究費助成事業「院政期・摂関期の宗教思想研究 菅原文時と永観を起点に」基盤研究(C)(一般)主催、早稲田大学多元文化学会/早稲田大学文化構想学部多元文化論系共催、早稲田大学総合研究機構後援国際シンポジウム「東アジア文化交流 呉越・高麗と平安文化」 於早稲田大学文学学術院第一会議室 2018.12.9
- (29)吉原浩人「白居易と平安朝漢文学 文人貴族の受容の諸相」(招待講演) 湖南大学外国語学院学術講座 於中国長沙市湖南大学外国語学院 2018.12.20
- (30)吉原浩人「白居易と日本古代文学」(招待講演) 止戈書院「中国伝統文化講座」講演会 於中国眉山市洪雅県止戈文化国際交流中心 2019.2.3
- (31)吉原浩人「日本古代の「神道」の語義と本地垂迹説」(招待講演) 南開大学日本研究院「2019年春日本思想史課程「原典日本神道思想史」特選講座」 於中国天津市南開大学日本研究院 2019.3.27

〔図書〕(計2件)

- (1)阿部泰郎・末木文美士編『中世禅籍叢刊』第12巻「稀覯禅籍集 続」(吉原浩人が『心性罪

福因縁集』の翻刻・解題等を担当) 臨川書店 執筆部分pp365-422,423-466,641-652,769-787 2018

(2)阿部泰郎・吉原浩人『南岳衡山と聖徳太子信仰』 勉誠出版 全340頁(執筆部分pp(1)-(7),21-62,318-328,329-332) 2018

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

吉原 浩人 (YOSHIHARA,Hiroto)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：80230796

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。